

OTC 医薬品の情報提供における課題抽出に関する研究

○木村 美咲<sup>1</sup>, 澤田 康裕<sup>2</sup>, 小野寺 隆芳<sup>3</sup>, 後藤 一美<sup>4</sup>, 佐々木 忠徳<sup>5</sup>, 工藤 賢三<sup>6</sup>, 小林 江梨子<sup>1</sup>, 佐藤 信範<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>千葉大院薬, <sup>2</sup>ウエルシア薬局, <sup>3</sup>マル・コーポレーション, <sup>4</sup>聖路加国際病院, <sup>5</sup>亀田総合病院, <sup>6</sup>岩手医大薬)

【目的】消費者による安全で効果的な OTC 医薬品の使用のために、薬剤師が情報提供及び服薬指導の際に必要なとする情報を調査した。

【方法】病院勤務の薬剤師及び薬局勤務の薬剤師を対象として、2014 年 8 月にアンケート調査を実施した。調査内容は、回答者基本情報及び消費者及び患者から相談を受けることの多い OTC 医薬品とその内容、病院に持参されることの多い OTC 医薬品、持参薬について調べることが多い内容、OTC 医薬品について調べた際に困ったこと、OTC 医薬品の添付文書に不足している情報等について、選択方式と一部記述方式を用いて回答を得た。

【結果】病院薬剤師 29 名、薬局薬剤師 30 名から回答を得た。OTC 医薬品について調べた際に困ったこととしては、薬剤の識別が困難であったことや、医療用医薬品との併用が可能であるか不明であったこと等の意見が得られた。医療関係者の視点から、OTC 医薬品の添付文書に記載されている情報量が適当であると思うか、という質問に対し「適切」と回答した者は、病院薬剤師で 69.0%、薬局薬剤師で 50.0%であり、「不足」、「やや不足」と答えた者はどちらも約 3 割であった。OTC 医薬品の添付文書において不足している情報としては、相互作用や体内動態、副作用の症状の詳細、なぜしてはいけないのか等の記載根拠等の意見が得られた。

【考察】病院薬剤師、薬局薬剤師共に、OTC 医薬品の添付文書の情報量は適当であると認識している者が多数であったが、一方で、相互作用や体内動態、副作用の詳細、各項目の記載根拠等について情報が不足していると認識されていることが明らかとなった。薬剤師が消費者に情報提供や服薬指導をする上で、これらの情報を充実させた情報媒体が求められていると考えられる。